を告げた。こ

ら擧更でつし戰にあの

めが時ら **・**の

め立府

をなる

τ

有て

*利の

が が が な を 事 を 事

学の多 這般施行したる普選第二次の總 ものである。 場の多 這般施行したる普選第二次の總 ものである。 場の ではり無産大衆の最も實生活復た曩に町會議員 としてなり無産大衆の最も實生活復た曩に町會議員 としてなり無産大衆の最も實生活復た曩に町會議員 としてなる開係を有し、吾人する町會議員 としてなる開係を有し、吾人する町會議員 としてなる開係を有し、吾人する町會議員 として、或ひは政戦の爲め中止花澤委員長以下東 のである。 を背影とする大準動を放擲を爲と舊担し、代表系 を背影とする大運動を放擲を爲と舊担し、代表系 を背影とする大運動を放擲を爲と舊担し、代表系 を背影とする大運動を放擲を爲と舊担し、代表系 を背影とする大運動を放擲を爲と舊担し、代表系 を背影とする大運動を放擲を爲と舊担し、代表系 を背影とする大運動を放射を爲と を背影とする大連動を放擲を爲と を背影とする大準の を背影とする大連動を放射を をである。 を背影とする大連動を放射を をである。 を背影とする大連動を放射を をである。 を背影とする大連動を放射を をである。 をできる。 をでる。 をできる。 をでる。 をできる。 をできる。 をでる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。 をできる。

で 電燈料金な で 質諸君が を 質諸君が を た

ば

に其

に、酔ひし

ででよくべきでう しれた今日に於て充分肝 しれた今日に於て充分肝 しれた今日に於て充分肝 しれた今日に於て充分肝

電燈值

間

題 は

醋

頭蛇

賃値

ご消え

B 運

?

何

一應の祝意と期待とを寄せた 事恋なる表は、議會に於ける其 のをは、議會に於ける其 のをであらう事に異存はな もこの本阿彌に還元する第一 もこの本阿彌に還元する第一 意と期待とを寄せた | 國民の一員として | 国民の一員として 於ては、この推定は確實なも ものと解すべく余りに稀薄な ものと解すべく余りに稀薄な が天下を取つた場合に於て が天下を取つた場合に於て が天下を取った場合に於て を放等が現在の「人間」であ も被等が現在の「人間」であ も被等が現在の「人間」であ のと云ひ得 んや過去に

一百數十五

あ

等月二回 等月二回 等行無編輯人印刷人 長谷川 兵衛 高島縣平町材木町 高島縣平町材木町 一十五日 安行 一十五日 安行 一十五日 安行 一十五日 安行 一十五日 安行 十二 五回

であ

大なる運動 められ 到 る

こ、且つ深慮するもの間と吾人は心密かに其成れなる運動も今や水泡に入 町 等 0

病然 ح

b

來任せり。 再度平營業品 ح して家族

*

し**其** ・成

平 T 盛る 次みを 女で生深 醫學 であつた 文を 女で生深 医學 であった 大生深 医学 で 其學 を 委見し自己は 所第二期生として 石城郡 看護婦會を 研究 が は 関る 意識 婦 を で 大なる 実 と して 石城郡 看護婦會を 研究 が は 関る 意識 婦 と して 石城郡 看護婦會を 研究 が は 関る 意識 の し と して 一 は 関る 意識 の と な らし で の は 関る 意識 の る の に ま が ま が に ま が に ま が に ま が に ま が に ま が に ま が に ま が に ま が に ま

者を癒さんとし して弦に惱み 苦しむ T 奮鬪

大平日產 本婆 產 看 婆護 會婦 代學 3 議校 貝長

師、 るも 變 の劑 で師

同伴 少より學才との生は、本郡

疑る動勝い る遅れた ₹, は n する一 τ,

返して 然翼らの 府の態度を 權の

れ健い繰

'右

も决して偶

最封する

認八名全

片

田の 中大 內敗 失國 政民 の的 總反 决感

く熟あらん事な 大衆の結束力の

ずを希よの此れ等

▲紀▲も▲落▲民にの▲國割部▲思▲算の▲ 政好寧・國ち向的、金歴民のの雁一嚴で反政 局のの軍民付後常善解代の劣清首番肅あ映友

安機福部のはない。 を機構では、 を検証ででに、 なるででに、 なるでに、 なるでは、 なるでに、 なるのでは、 なるでは、 な。 なるでは、 な。 なるでは、 なるでは、 なるでは、 な。 な。 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 なでは、 我も陸恐を公間 軍がある。一個では、これのでは、これ 通らない。 な▲が▲廣は▲權は▲ざ指▲は▲居▲農▲る▲勇一け所ぐ義く及議能危小れ導合此小る是黨無と無氣層れ謂つ務すぶ事を險會ば精同の感のれが産雖産を强

(別ない)な長袖

9 11

V. * . 1

は襟度を

槻 全權 ŧ.

たずい

(史女子よき野清)

頗 座

3

大

婦

神神

藥好

▲新田町の或る○○さん、関る
● 竹の家文の噂とりんですね、の夢にまずかの家文の噂とりんですね、の夢にまずをでする。
● は四年度限り、一春のでする。
「春のでする。」でせずるのでする。
「春のでする。」ではずるのでする。
「春のでする。」ではずるのでする。
「春のでする。」でする。
「春のでする。。
「春の

るべ く面白かるべき春は來れよど。の春風の訪れ、私達のいと樂し 往 燈 き瞬 戦を平凡裡 梅に笑はせ柳に誘ふそ 0 巻に して・ 大禁 過ぎ去り 物た

かのつき カロ 日本 産春ぞ 南野 天〇 理千 ○敎代

●我等の支持せる○○候補は辛 うじて當選した、ヤレ/~水 うじて當選した、ヤレ/~水 には世間の手前、見ても見飽 とは世間の手前、見ても見飽 のよし子御前がね。 よ勞私たね。 何で同 即一人ちやない苦へ足淋しい想のない苦いた。 一人ちやない苦い想のはでせう して居りまし

なりこす。 せ久る本 は戀よ りました たん 谷よ、き の一御靈朧 の意里の標準の標準を開発した。

婚れし出**何**其

上ますが行中の一 と號の小中眞

舊正月元旦 ょ

娛樂場開 ラジウム旅館 上 始

U

念

患

はこの限

り に

あら

-y-,

園

町

五

B

角

主

局

田

飯

城

近

上付き 飲食物 (一日席 候 御隨 0 意用 意 御 持無 共 之に

動御希望の

方は

最も成績の

良

及看護學を北薦め致します 收益も多大で又家庭の一助

ケ

年

て

卒

が

出

來

3

了

3 産婆

世御家の

「梅に忍んだ移り香な腹なさらなくつてよい類丸君、何もそのやる

大人廿

鐽

腹菊

風婦 そんて婦人に最も 人にも職業の 必要な時代 ふさわ t い職業は か 参りま 1 Ù せ j

銅鐵 金

W 問 屋

電話九番· 一三九番 太

般左記ノ 廣 、候間此段及謹告候 告

通

ij

開業致

A PH 往宅 昭 和 五 時 年三月 H 七時より 午後 時迄

平町 南町六五 女 醫 -(元大和田

醫][[][[

病 濟 番一四六話電 町